

2023年7月3日
東京文化資源会議

神保町活性化（夜の賑わい）PTの立上げについて

<趣旨>

本や知識をコア資源として活用する新しいまちづくり「K city」のモデルとして神保町の未来を考える。また、都市の新しいナイトライフのモデルになるようにする。

<取組方針>

雑誌やテレビで頻繁に取り上げられるなど、近年神保町の本の世界に対する社会的関心は高まっており、また実際に現地でも土曜日の人出や、これまで中高年男性を中心だった来街者に外国人・若者・女性の訪問者が増えている。その一方で、三省堂の移転や古書店の承継問題など、神保町の基盤が揺らぎ出しているようにも思われる。また古書店が閉店する夜間と日曜日（時間資源）は、相変わらず街は閑散としており、充実している飲食店等もそれに合わせて閉店している状態で、せっかくの街の文化資源が活用されていない。また、大丸有や日本橋から近いという空間資源（それに伴う人的資源）も未活用のままである。

そこで、神保町の夜の活性化策を先ず考えることをテーマとして、書籍を中心とした文化資源と夜間という時間資源の相乗的な活用を図るモデルを提示・実現することを目的に、様々なしがらみがある地元当事者ではない、神保町と本に関心のある外部の人間が大胆な提案ができる場を東京文化資源会議として作ることとしたい。

<想定課題>

- 神保町の好機と危機、強みと弱み（SWOT分析）
- 時間資源（夜）と空間資源（周辺地域）の有効活用
- 新たな人材発掘と受け皿組織の編成 → 「夜の大学」をつくる（神保町の原点）
- 大規模開発ではない、文化資源（書籍、飲食店等）を活用した街づくりモデル（資金循環の仕組みづくり）の提示

<検討メンバー>（50音順、敬称略）

生貝直人（一橋大学教授）
植村八潮（専修大学教授）
薄井宏行（東京大学助教）

梶原治樹（扶桑社販売局長）
加藤賢治（日鉄興和不動産開発企画本部開発第一グループリーダー）
加藤聰（日本学術振興会特別研究員）
沢辺均（ポット出版代表）
柴田耕（住友商事ビル事業部事業推進第一チームリーダー）
柴野京子（上智大学教授）
玉置泰紀（角川アスキー総合研究所エリア LOVE ウォーカー総編集長）
坪内一（千代田区立千代田図書館サービスプロデューサー）
沼田真一（東京造形大学准教授）
柳与志夫（東京大学特任教授）：座長
渡部哲也（三菱地所都市計画企画部理事）

<オブザーバー>

- 江草貞治 勁草書房社長
- 林保太 文化庁芸術文化支援室長

<関係者>

- 上川陽子 活字文化議員連盟会長（外務大臣・衆議院議員）
- 笠浩史 衆議院議員
- 山口寿一 文字・活字文化推進機構理事長（読売新聞社長）

<神保町 PT キックオフ記念ラウンドテーブルの開催>

問題提起を中心としたラウンドテーブルを、当検討会の立ち上げ記念として本年内をめどに開催する。

- ◎ 第1回検討会を2023年7月3日、第2回を8月4日に開催した（@学士会館）。